

埼玉親善大使レポート

活動場所： カナダ・アメリカ

氏名： 坂野なな

カナダでの交換留学

私はカナダのバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学（以下、UBC）にて1タームの交換留学をしました。バンクーバーはカナダの西海岸に位置し、夏は日本の避暑地のように過ごしやすい一方で、冬は雨や曇りの日が多く、湿度が高く日照時間も短い気候です。しかし、現地の人々は雨が降っていても傘をささないことが一般的であり、日本との文化の違いを感じました。移民が多いので多文化を尊重する雰囲気が根付いています。

異文化交流と成長

UBCでの留学生活では、学業面だけでなく、学生寮での生活を通じて人間的にも大きく成長することができました。欧米出身の留学生15人のグループで行動することが多かったのですが、日本では友人とカラオケやカフェ巡りを楽しむことが多いのに対し、カナダではハイキングやスポーツ観戦、読書を楽しむことが多く、新鮮な発見が多かったです。また各々自分のやりたいことを大事にしている、常にグループで行動するのではなく、一人行動をすることも多かったのも新鮮でした。

文化の違いで苦労したのはジョークです。私がこのグループの中で唯一のアジア出身者だったこともあり、話題の内容やジョークのセンス、生活習慣など、あらゆる面で文化の違いを感じる場面が多くありました。特にジョークに関しては、彼らの文化に根付いた

「Sarcasm（皮肉）」を理解するのに苦労しました。Sarcasmとは、「ユーモアを交えながら、明らかに本音とは逆のことを言うことで、相手をからかったり、軽い批判をしたりする表現方法」です。例えば、水を取ってほしいと頼んだ際に、「No」と言いながら実際には水を渡してくれるような場面が挙げられます。日本にはこうした文化がほとんどないため、最初のうちは彼らの言葉が冗談なのか本心なのか分からず、戸惑うことが多々ありま

した。欧米に Sarcasm の文化があることは事前に知識として理解していたものの、それを実際に経験し、体感を通じて理解することの間には大きな違いがあることを実感しました。しかし、日々この文化に触れることで次第に馴染み、最終的にはジョークを理解し、スムーズにコミュニケーションをとれるようになりました。留学が終わる直前に友人たちとメッセージや写真を交換する機会があったのですが、多くの友人から「最初の頃とは大きく変わり、人間的に成長した」との言葉を貰うことができました。自分では気づけなかった自身の変化を実感し、この留学が単なる学業経験にとどまらず自己成長の機会にもなったことを改めて実感しました。

埼玉県の PR 活動

留学中、埼玉県の魅力を海外の友人に伝えるため、以下の 2 つの PR 活動を行いました。

1. 埼玉の郷土料理「肉汁うどん」の紹介

ルームメイトに「肉汁うどん」を振る舞い、埼玉の食文化を体験してもらいました。欧米でも手に入りやすい食材（ねぎ、豚肉、きのこ）を使用し、再現しやすいレシピで作ることで、友人たちが帰国後も料理を再現できるよう工夫しました。「Udon（うどん）」という言葉は欧米でも広く知られているため、受け入れられやすく、非常に好評でした。

2. 岩槻人形の紹介

寮に埼玉の伝統工芸品である「岩槻人形」を飾り、ルームメイトや寮に遊びに来る友達に紹介しました。「着せ替え人形は恋をする」というアニメの影響で、日本文化に興味を持つ学生が多かったので、アニメに実際に登場する鈴木人形を実際に見ることで、多くの人に埼玉の伝統文化を知ってもらうきっかけとなりました。

岩槻繫がりでも、岩槻にあるヨロ研カフェについても紹介し、埼玉ではヨーロッパ野菜の栽培がされていることを伝えると、とても喜んで貰えました。

まとめ

この4か月間の留学を通じて、学業面では実践的なビジネス知識を得ることができ、生活面では異文化の中で適応力や多様性を受け入れる力を養うことができました。また、埼玉県の魅力在海外の人々に伝える活動を行うことで、地域文化を再認識し、改めて日本の伝統を大切にしたいという気持ちが芽生えました。この貴重な経験を今後の人生に活かし、グローバルな視点を持ちながら、今後も日本や埼玉県の魅力を国内外に発信していきたいと考えています。

